



支部探訪⑨ 広島県支部 座談会

大商大時代の人脈を活かしつつ、時流を捉えた活動で広島を盛り上げる。

平成21年に設立された広島県支部。国際的な観光都市であり、昨年にはオバマ米大統領(当時)が現役の大統領として初めて平和記念公園を来訪されたほか、カープ女子などで盛り上がる広島市を拠点に活動されています。そんな会員の皆様に、大商大時代の思い出や今後の展望などをお聞きしました。

部活動など、貴重な経験を積んだ学生時代

——大商大時代のエピソードなどをお聞かせください。

吉田:私が大商大に入学したのは、地元以外の大学の野球部で活躍したかったからです。当時の大商大野球部はあまり強くありませんでしたが、同学年に甲子園出場経験者も多かったため徐々に成績を上げ、在学中に阪神リーグから関西六大学リーグへ昇格しました。

白井:私は吉田さんの1学年下の野球部で頑張っていました。学生時代の一番の思い出はカレーの臭いですね(笑)。通学途中にカレー工場があったので、強烈に覚えています。

佐竹:私は自動車部に所属していました。主に運転技術を磨くのですが、1年の時に新潟で災害があり、トラックに救援物資を積んで出かけたこともありました。

加藤:私も自動車部でした。当時はモータ



探訪の会場「寿し 武蔵」41年卒武井祥俊の経営

のように活躍してほしいですね。

永井:私は証券研究会に入りました。猪苗代湖に合宿に行ったことを今でも覚えています。

藤岡:私は古都研究会でした。40名ほどが在籍しており、女性も多かったですね。

村上:私の学生時代の思い出と言えば、寮生活です。先輩方にいろんな面で鍛えられました。そのお陰か、今でも寮歌、学生歌、応援歌は歌えます。

三谷:私も寮生活を送っていました。当時は上下関係の厳しさに苦労しましたが、今では懐かしく思っています。

渡辺:私も寮に入っていて、1年生の時は先輩に紅茶を入れる担当でした。2年生になって解放されると思ったら、先輩が「お前の紅茶が旨いからこれからも淹れてくれ」と。2年間、紅茶担当でした(笑)。

重廣:私の場合、毎日学校と下宿の往復が大変だったことが一番の思い出です。

中川:私も寮生活をしていて、その時に広島カープが日本一。あの「江夏の21球」には、寮内の広島出身者同士とても盛り上がったことを覚えています。

部活動の人脈でつながった広島県支部設立

——支部設立の経緯などをお聞かせください。

加藤:平成20年の3月に、宇野副会長から「広島県支部を立ち上げてはどうか」とご連絡があったのがきっかけです。私一人では何もできないので、同級生の吉田さんに連絡し、まず準備委員会を設置し



ました。そこには本日同席されている古田さん、白井さん、本井さんなど9名がメンバーに入っていました。皆さん、やはり学生時代の部活動の人脈を生かして精力的に活動されました。そして平成21年10月、初代の支部長を吉田さんをお願いして、発足しました。次の支部長が白井さん、今は渡辺さんに支部長をお願いしています。

中川:私は竹原市役所に勤めており、大商大出身でもある職場の先輩から支部の話を知りました。そこでお会いしたのが渡辺支部長です。以来、微力ながら支部発展のためみんなで力を合わせて頑張っています。

今後の課題は女性部員の入部

——発足後約8年が経過した今、次の目標は何ですか？

加藤:皆さんに協力いただいて活動を続けていますが、課題は女性が少ないことではないでしょうか。

吉田:一昨年にドラフト1位で広島カープに入団した岡田明丈選手は、女性からも人気が高いですね。

三谷:私も岡田選手の活躍に期待しています。1軍で投げるたびにモチベーションが上がりますよ。

渡辺:岡田選手の後援会の設立の動きがありますので、後援会と我々の支部が連携しようと考えています。

永井:男性のカープファンは控えめですが、カープ女子は明るく熱心に応援されていますね。そんな女性が一人でも多く

広島県支部出席者



支部長
渡辺 高守
(昭和49年卒)



副支部長
本井 重辰
(昭和54年卒)



理事
佐竹 秀治
(昭和43年卒)



理事
重廣 博之
(昭和45年卒)



理事
三谷 光蔵
(昭和49年卒)



顧問
加藤 重治
(昭和38年卒) (徳島山本)



顧問
吉田 祥三
(昭和38年卒)



顧問
白井 勝秀
(昭和39年卒)



監事
藤岡 秀康
(昭和48年卒)



会計担当
村上 和之
(昭和49年卒)



専務理事
中川 隆二
(昭和58年卒)

校友会本部出席者



永井 健二
(昭和46年卒)



副会長
宇野 幸三



常任理事・編集委員
竹内 行弘

支部に入っていただけならいいですね。
吉田:近い将来、岡田選手にも支部の総会に来ていただきましょう。

オバマ氏の来訪は誰もが感動

——昨年、オバマ米大統領(当時)が広島を訪れました。皆さんはどのように受け止められましたか？

渡辺:私の母親が広島駅で被ばくしまして、私は「被ばく2世の会」に入っています。その縁もあって被ばく者の方にお会いすると、皆さんが「これ以上の地獄はなかった」とおっしゃいます。その惨状を私たちは後世に伝えていく義務があるのではないのでしょうか。今回のオバマ氏の来訪は世界中に発信されたので、とても意義があったと思います。

吉田:オバマ氏が被ばく者の代表と抱き合った時は、胸が熱くなりました。

本井:先日、平和記念公園に行った時、外国人観光客がとても増えていました。オバマ氏の来訪がきっかけでしょうね。
渡辺:引き続き、私たちは戦争、そして原爆の惨状を後世にしっかりと伝えていきましょう。

——本日はありがとうございました。広島支部発展への期待、そして平和への思いが伝わりました。今後のご活躍に期待します。

(収録:平成29年4月23日)

校友会本部出席者(聞き手):
宇野幸三副会長、竹内行弘常任理事